

『地域アセスメント』現況報告

玉縄地域アセスメント推進会議 座長 曾田 健二

ここ玉縄で『みんなが暮らしやすいまち玉縄』の実現を目標にして、玉縄地域アセスメント※推進会議がスタートしてから早くも三年の月日が流れ、この正月で四年目を迎えることになりました。

* * *

二年前の二月以来、地域アセスメント推進会議は新型コロナウイルス感染症拡大による、度重なる緊急事態宣言の発出により、当初予定していた様々な活動を行うことが困難な状況が続きました。しかし、そんな中でも三つの密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けるなど感染予防対策を徹底しながら地域アセスメント推進会議を重ねました。会議では推進委員から、これからは地球温暖化による異常気象によって引き起こされる想定外の風雨災害や、近い将来予想される首都圏直下型地震などの震災に備え、地域福祉のアセスメントに加え、災害や感染症に関するアセスメントも実施すべきであるとの方向性が示されました。その方向性を踏まえ、新たに『福祉と防災の連携』を図りながら地域アセスメント推進会議を進めて行くこととなりました。

そして、当初からの懸案であった『玉縄地域の暮らしやすいところ、暮らしづらいところ』を実際に見て廻る現地調査を、地域福祉の見地と併せて地域防災の見地からも実施することとしました。

* * *

玉縄地域の全体像を的確に把握するために、五つの現地調査のコースを設定し、昨年六月に二コース、十月に三コースを実施することが出来ました。

現地調査ではコロナ前にアセスメント推進会議で調査した玉縄地域のフォーマル資源（病院や薬局、介護施設、公園など）の現地確認と併せて、災害時の浸水区域や崖崩れ等の災害危険箇所、街頭消火器の設置場所などの目視確認を実施いたしました。

また、現地調査時に数カ所の自治町内会館を訪問し、その地域の自治町内会長から直接お話を伺うことが出来ました。自治町内会長からそれぞれの地域の実情を細かくお聞きすることが出来たと同時に、玉縄地域が抱えるさまざまな課題について気づくことが出来ました。

現地調査には毎回十名程の推進委員が参加して、それぞれのコースを三時間程かけて歩き廻りましたが、各コース共に山あり谷あり平地ありのハードな行程となりました。また、季節外れの暑さに見舞われる日もあり熱中症の心配もありましたが、参加者全員が事故無く体調を崩すこともなく廻ることが出来ました。参加者は、玉縄の各地域に対する認識をお互いに深めることが出来、現地調査は実り多いものとなりました。

* * *

変異株の出現など新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現状において、コロナ以前とは異なる新しい社会環境や新たな価値観が出来上がっています。また、周知のとおり鎌倉市では何年も前から少子・高齢化が進み、高齢化率が三〇パーセントを超え、若い世代が減り支え手が不足すると、高齢者や生活弱者への支援が困難になることが予想されています。

このような社会環境の変化のなかで、私たちは地域アセスメントを継続的に実施することにより、玉縄地域の現状と課題を的確に把握していき、

『みんなが暮らしやすいまち玉縄』『災害に強く安全安心に暮らせるまち玉縄』の実現に向けて**我がこと意識**を強く持つて、私たちの地域アセスメント推進会議を進めていきたいと思っております。

今後とも玉縄に暮らす皆さまのご協力をお願いいたします。

※アセスメントとは、英語で「評価・査定・分析」を意味します。

玉縄の地域アセスメントは、地域社会や社会資源の状況と地域住民の課題を把握し、**我がこと意識**を持って、玉縄地域のことは玉縄で解決していくための計画策定や活動実践につなげていくことを目的としています。



七曲り坂を上る参加者



玉縄すこやかセンターにて

現地調査のコース

- ①岡本コース
- ②玉縄+関谷（東部）コース
- ③城廻（打越）+関谷（西部）コース
- ④城廻（城廻中村）+渡内コース
- ⑤植木コース